

「歴史と文化のまち彦根」をギャンブルから守りましょう！

いま彦根市内では、市議会に場外馬券売場設置同意の請願書が提出されるなど、場外馬券売場誘致を求める運動が活発に行われています。しかし、獅山市長は12月議会で「彦根市にはギャンブル施設はいらない。インターチェンジの入り口にそういう施設があれば、彦根市民の品格に対する考え方が問われる」と答弁し、反対の立場をあらためて表明しました。そして、多くの彦根市民も「世界遺産の暫定リストにも挙げられた彦根城を有する彦根に、大勢のギャンブラーが集うギャンブル施設はふさわしくない」「彦根の玄関口に場外馬券売場をつくれば、歴史と文化のまち彦根がギャンブルのまちに変わってしまう」と心配しています。

私たちは「彦根市民憲章」に掲げられている通り、彦根市に住むことの誇り、安堵を誰もが感じられるように、彦根市の健全な発展をはかるべきだと思います。

市民みんなの力で「歴史と文化のまち彦根」をギャンブル施設誘致から守りましょう。

《場外馬券売場が新たな財政負担になる心配も・・・》

場外馬券売場を誘致すれば多額の交付金が得られ、市の財政に貢献できるかのような宣伝が行われています。

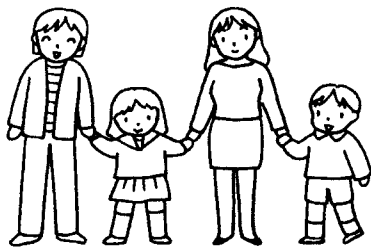
しかし、日本中央競馬会は「彦根の場外馬券売場に交付金を出すなどの約束は一切していない」と言っています。

また仮に誘致しても、場外馬券売場周辺の環境整備費のうち一部は市税から支出しなければならず、

「財政に貢献」どころか

「新たな負担」となる心配

もあります。



《土曜・日曜の交通渋滞が心配です・・・》

今でも交通渋滞が続くインター付近に何千台もの車が出入りする施設が出来れば、土曜日、日曜日には渋滞がひどくなり、周辺住民の迷惑になるばかりでなく、彦根を訪れる観光客が大きく減少するという危惧があります。

《青少年の健全育成に悪影響を及ぼす心配も・・・》

彦根は3つの大学がある学園都市です。場外馬券売場が出来れば、彦根はもとより周辺地域からも多くのギャンブラーが「一獲千金」を夢見て集います。そのような施設に警備員を配備したからといって、未来を担う青少年に悪影響が無いと言えるでしょうか。

原団地自治会・原町西団地自治会・西沼波東部自治会・湖上平地蔵町自治会

場外舟券・車券売場建設に反対する自治会連絡協議会

場外舟券・車券売場建設に反対する会

Q：彦根市原町の場外馬券売場計画は反対運動で終結したと聞いていたのに、一体どうなっているのでしょうか？

A：1990年頃の場外馬券売場計画は周辺自治会を中心にした反対運動で阻止することができました。その後、2003年になって競輪、競艇の場外券売場の誘致計画が浮上し、場外舟券車券売場設置に反対する獅山氏が市長に当選し「前市長の同意書」撤回を通告しました。しかし、これまでに計画企業の断念表明はありません。昨年、原町自治会などが再び場外馬券売場の誘致に動き出し、市議会に誘致同意の請願書を提出するなど現在も活発に運動しています。もし、この場外馬券売場誘致を許せば、競輪、競艇も再燃する可能性があり、彦根が競馬、競輪、競艇の場外券売場を合わせ持つ巨大ギャンブル基地になるのではないかと心配です。

Q：場外馬券売場を誘致すれば環境整備費などの交付があり、彦根市の財政に貢献できると宣伝していますが本当でしょうか？

A：場外馬券売場を誘致すれば、環境整備費の交付、彦根城築城400年祭事業や教育文化施設整備事業への支援、国道バイパス工事の負担などが約束されているように宣伝されていますが、日本中央競馬会（JRA）は「彦根からの誘致は一切ない。交付金や寄付の約束は一切していない」と「約束」をきっぱり否定しています。日本中央競馬会（JRA）が否定している「交付や支援の約束」が繰り返し宣伝されるのは何故でしょうか。

仮に場外馬券売場を誘致した場合には、周辺環境整備のために多額の費用を要しますが、JRAはその全額を交付するわけではなく、一部は彦根市の負担となります。これでは「財政に貢献」どころか、新たな負担にならないか心配です。

「場外馬券売場」のここが心配です！

Q：青少年問題や交通環境については、警備や交通整理などの対策をとるので心配ないと宣伝していますが大丈夫でしょうか？

A：1991年に大阪市内の場外馬券売場で中高生などの未成年者685人が大阪府警少年課に補導されています。その40%が「大人もやっているから悪いことと思わない」と答えています。資金欲しさに恐喝を繰り返していた中学生もいました。この大阪府警の調査は、1993年5月の高松地裁のウインズ高松差し止め訴訟の判決に引用され、判決文で「未成年者の馬券購入を完全に防止することは不可能であり風俗や教育上の悪影響を与えることは否定できない」と認定しています。

「彦根ウインズ」の計画によればGⅠレース開催日には約14,000人の来場者（約2,500台の車）を見込んでいます。今でも交通渋滞が多発している地域にこれだけの車が集中すれば、道路整備や交通整理の対策を講じて、交通環境の悪化は避けようがないのではないかと心配です。

Q：彦根市経済発展の一助として場外馬券売場を誘致すると宣伝していますが、本当に彦根市経済が発展するのでしょうか？

A：山梨県の旧石和町当局は「ウインズ石和」に関する調査報告書に「場外馬券場の利用者は車が多く町内には渋滞が多く見られ、商店街の活性化は見られない」とはっきり書いています。また、前石和町議、星合弘三郎氏の報告によれば、当時、自民党員で石和町議会議長や商工会長をしていた若杉博氏は「場外馬券売場が出来れば人が来て商店が繁盛する」という宣伝を信用して誘致に協力しましたが、5年後には宣伝とまったく違う実情を目のあたりにして、85歳で亡くなるまで、全国の場外馬券売場反対運動を激励して回ったそうです。

昔から親に「大きくなってもバクチにだけは手を出すな」と言われたものです。その私達が場外馬券売場を誘致して「歴史と文化のまち彦根」を「ギャンブルのまち」にしては、子供達に顔向けできません。彦根市経済の発展をギャンブル施設の誘致に頼るのではなく、健全な発展のために力をつくそうではありませんか。

原団地自治会・原町西団地自治会・西沼波東部自治会・湖上平地蔵町自治会・場外舟券車券売場建設に反対する自治会連絡協議会・同反対する会